

## 国語科 小学校第4学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題	
4	詩を楽しもう 春のうた いつも気をつけよう／つづけてみよう ◎情景を想像し、リズムを楽しみながら工夫して音読する。	B(1)ア・ウ A(1)ウ 伝国(1)イ(オ)	2			語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。	○文章に書かれていることを理解して音声化するように進める。	自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。	
	<b>1. 音読げきをしよう</b> 「白いぼうし」 ◎人物の行動や心情、場面の様子などがよく分かるように工夫して、音読劇をする。	C(1)ア・ウ B(1)オ 伝国(1)イ(キ)	9 (+1)	文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする必要がある。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。		
	漢字の組み立て 漢字辞典の使い方 ◎偏旁冠脚に関する漢字の組み立てについて知識をもったり、漢字辞典の使い方を知り、漢字の部首や成り立ちについての知識をもつ。	伝国(1)イ(カ)・ウ(イ)(ウ)	3		文の中における主語と述語との関係に注意する。	○辞書を利用することを習慣付けるために、必要な時いつでも辞書が手元にあり、使えるような言語環境をつくる。	語感、言葉の使い方に対する感覚などについて感心をもつ。		
	夏近し ◎春から夏へと移り変わる季節の風景に興味をもち、それにかかわる語句を増やす。	伝国(1)イ(オ)	1		句読点の打ち方や、かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使う。		文章の中での語句と語句との関係を理解する。		
	話し合いのしかたについて考えよう よりよい学級会をしよう 話す言葉は同じでも ◎司会や提案者などの役割を理解し、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合う。	A(1)オ 伝国(1)イ(ア)	5		互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。	○司会者や提案者などの役割を経験する機会を設けて進める。	互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。		
5	<b>2. 読んで、自分の考えを</b> <b>まとめよう</b> 「大きな力を出す」 「動いて、考えて、また動	C(1)イ・エ・オ B(1)カ 伝国(1)イ(ク)	10 (+1)	指示語や接続語を用いて文章を書く力をつける必要がある。	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。	○筆者の意見と裏付ける事実や根拠を読むように進める。 ○互いの感じ方や考え方の違いに気付くようにさせる。	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする。 本や文章を読んで考えたことを		

	く」 ◎筆者の考えを読み取るために、事実と意見の関係をとらえて、段落相互の関係を考える。						発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。	
	漢字の広場① ◎3年生までに配当されている漢字を書き、文の中で使う。	伝国(1)ウ(イ) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	いろいろな意味をもつ言葉 ◎多義語について知り、言葉への興味を広げる。	伝国(1)イ(オ)	2		句読点の打ち方や、かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使う。	○辞書を利用することを習慣付けるために、必要な時不いつでも辞書が手元にあり、使えるような言語環境をつくる。	文章の中での語句と語句との関係を理解する。	
6	3. 調べたことを報告する  文章を書こう  「読書生活について考えよう」 ◎知りたいことについて必要な事柄を工夫して調べ、調べる方法、調べた結果、結果から考えたことを明確にして文章を書く。	B(1)ア・イ・ウ・オ 伝国(1)イ(エ)	1 3		経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集める。自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。	○興味や関心を自分から深めさせる。 ○各段落の役割を意識させて文章を構成することをおさえる。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イの(エ)を配慮して指導する。	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。	
	声に出して楽しもう 一茶・蕪村など ◎文語調の短歌や俳句を音読して、情景を想像しながら、日本語特有のリズムを感じ取る。	伝国(1)ア(ア)	1		昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	○親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりする。短歌や俳句を作ってみたいという気持ちをもたせる。読むこと(2)のイや、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)のカと関連させて、言語に関する児童書を活用させる。	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。	
	まちがえやすい漢字 ◎漢字と仮名を用いた表記に関心をもったり、同音異義語や同訓異字の使い分けを通して、漢字や語句の意味の違いに気づき、文や文章の中で使ったりする。	伝国(1)イ(イ)・ウ(イ)	2		音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付く。	○話すこと・聞くこと(2)のイと関連付け、感想や意見を適切な言葉で表すことが大切であることに気付かせる。「漢字と仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に関心をもたせ、交ぜて書く利点に気付かせて、句読点を含め読みやすい表記を考えながら書く言語感覚を養わせる。活用語尾について、送り仮名の原則的な付け方を理解させ、活用についての意識をもたせる。	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。	

	<p>4. 物語を読んでしょうか</p> <p>いしよう</p> <p>「一つの花」 ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んだり、物語を読んで感じたことや考えたことを発表し合い、友達との感じ方・考え方の違いに気づいたりする。</p>	<p>C(1)ウ・オ・カ B(1)カ 伝国(1)イ(ア)</p>	8 (+1)	<p>様子を表す言葉を用いて表現できるようにすることが重要である。</p>	<p>場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。</p>	<p>○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。 ○互いの感じ方や考え方の違いに気付くようにさせる。</p>	<p>登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。</p>	
7	<p>夏さかん ◎夏の情景に興味をもち、それにかかわる語句をふやす。</p> <p>新聞のとくちょうと作り方を 知ろう 新聞をつくろう ◎新聞の特徴と作り方を 知り、記事にすることを 決めて、伝えたいことが 明確になるように文章を 書く。</p> <p>漢字の広場② ◎3年生までに配当されて いる漢字を書き、文の中 で使う。</p> <p>本は友達 本は友達 かげ ◎いろいろな本や文章を、 目的に応じた読み方が できたり、書こうとす ることを決め、目的や 必要に応じて絵や図、 引用なども用いなが ら書いたりする。</p>	<p>伝国(1)イ(オ) B(1)カ B(1)ア・イ・ウ・エ・オ 伝国(1)イ(エ) 伝国(1)イ (ウ)・ウ(イ) B(1)オ C(1)エ・オ・カ B(1)ア・ウ 伝国(1)イ(ア) C(1)ア・オ 伝国(1)イ(オ)</p>	1 7 2 6 (+1)		<p>書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。</p> <p>自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、直す。</p> <p>学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。</p> <p>楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読む。 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く。</p>	<p>○考えの明確さや書き方の巧みさなどを述べ合うよう進める。</p> <p>○各段落の役割を意識させて文章を構成することをおさえる。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(エ)を配慮して指導する。 ○文節同士の関係などに間違いがないか確かめることをおさえる。</p> <p>○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う。</p> <p>○多様な目的に応じて読みたい内容を絞って読むようにさせる。 ○文章を段落的にとらえ、それぞれの段落の役割を効果的に表現することを扱う。また、A(1)のイと関連を図る。</p>	<p>書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。</p> <p>自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。 表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。</p> <p>仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。</p> <p>目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む。 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。</p>	
8	<p>詩を楽しもう 忘れ物 ぼくは川 ◎表現されている内容や話者の気持ちがよく分かるように音読をしたり、二つの詩を読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方の違いに気づいたりする。</p>		2		<p>語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。</p>	<p>○文章に書かれていることを理解して音声化するように進める。 ○互いの感じ方や考え方の違いに気付くようにさせる。</p>	<p>自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。</p>	

	カンジーはかせの漢字しりとり ◎漢字しりとりを楽しみ、漢字を正しく読んだり書いたりする。	伝国(1)イ(オ)	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
9	<b>5. 調べて発表しよう</b> 「だれもがかかわり合えるように」 <資料>手と心で読む 「発表のしかた」 ◎関心のあることなどから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモしたり、相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて、話し方の工夫を考えて話したりする。	A(1)ア・イ・ウ・エ 伝国(1)イ(ア)	16		身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出す。 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。	○関心のあることから話題を決め、得た情報を整理し相互関係を付けられることをおさえる。 ○相手や目的に応じて丁寧な言葉を選ぶ力を付けることをおさえる。	考えた事や伝えたい事などから話題を決め、収集した知識や情報を関係付ける。 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。	
10	漢字の広場③ ◎3年生までに配当されている漢字を書き、文の中で使う。	伝国(1)ウ(イ) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	<b>1. 読んで考えたことを話し合おう</b> 「ごんぎつね」 ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んだり、文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づいたりする。	C(1)ウ・エ・オ A(1)オ B(1)ア・カ 伝国(1)イ(ア)	14 (+1)		場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。	○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。 ○司会者や提案者などの役割を経験する機会を設けて進める。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。	
	秋探し ◎秋の情景に興味をもち、それにかかわる語句をふやす。	伝国(1)イ(オ) B(1)ア	1		句読点の打ち方や、かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使う。		文章の中での語句と語句との関係を理解する。	
	慣用句 ◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、生活の中で使う。	伝国(1)ア(イ)	2			○ことわざや慣用句、故事に含まれる言葉の意味を知り、実際の言語生活に用いることを扱う。読むこと(2)のイや、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)の力と関連させて、言語に	古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	

1 1	<p>2. 説明のしかたについて</p> <p>考えよう</p> <p>「アップとルーズで伝える」  ◎それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているのかを考えながら読んだり、写真と対応した部分に注意して読み取り、「アップ」と「ルーズ」のそれぞれの特徴をまとめたりする。</p>	C(1)イ・エ 伝国(1)イ(ク)	9		時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。	関する児童書を活用させる。 ○筆者の意見と裏付ける事実や根拠を読むように進める。 ○引用したことについて自分の考えをもつようにさせる。	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかきだす。 文章の構成や展開、表の特徴について、自分の考えをもつ。	
	<p>写真と文章で説明しよう  「仕事リーフレット」を作ろう</p> <p>◎関心のあることから書くことを決め、書くうえで必要な事柄を調べたり、書くこととすることの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書いたりする。</p>	B(1)ア・イ・ウ・エ 伝国(1)イ(エ)	9		経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集める。語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く。	○興味や関心を自分から深めていくように進める。 ○文章を段落的にとらえ、それぞれの段落の役割を効果的に表現させる。また、A(1)のイと関連を図る。	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。	
	<p>声に出して楽しもう  子規・啄木など</p> <p>◎文語調の短歌や俳句を音読して、情景を想像しながら、日本語特有のリズムを感じ取る。</p>	伝国(1)ア(ア)	1		昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	○親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりさせる。短歌や俳句を作ってみたいという気持ちをもたせる。読むこと(2)のイや、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)のイと関連させて、言語に関する児童書を活用させる。	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。	
1 2	<p>3. 物語を読んで、感想文を書こう</p> <p>「三つのお願い」  ◎登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んだり、書こうとすることの中心を明確にし、理由を挙げて書いたりする。</p>	C(1)ウ・エ・オ B(1)ア・イ・ウ・オ・カ 伝国(1)イ(オ)	9 (+1)	感想を表すときに使う言葉や表現を増やす必要がある。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。	○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。 ○各段落の役割を意識させて文章を構成することをおさえる。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イの(エ)を配慮して指導する。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。	

	漢字の広場④ ◎3年生までに配当されている漢字を書き、文の中で使う。	伝国(1)イ(ウ)(エ)・ウ(イ) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	言葉について考えよう 文と文をつなぐ言葉 ◎文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使う。	伝国(1)イ(ク) B(1)オ	7			○指示語や接続語については、読みの指導の中で、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとしておさえる。	日常よく使われる敬語の使い方に慣れる。	
1	詩を楽しもう のはらうた ◎野原の住人の性格や思いを想像しながら、「のはらうた」を読む。	C(1)ウ・オ 伝国(1)イ(ア)	2		場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	
	詩を書こう 野原の仲間になって ◎「のはらうた」で読んだ数編の詩を参考に、自分が作りたい詩について考える。	B(1)ア・オ・カ 伝国(1)イ(ア)	4		経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集める。	○興味や関心を自分から深めていくように進める。	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。	
	熟語の意味 ◎訓や漢字の組み合わせを手がかりにして、熟語の意味を考えるとともに、これまで学習した漢字を正しく読んだり書いたりする。	伝国(1)ウ(イ)	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	春立つ ◎冬の情景に興味をもち、それにかかわる語句をふやす。	伝国(1)イ(オ)	1		句読点の打ち方や、かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使う。		文章の中での語句と語句との関係を理解する。	
	4. 科学読み物をしようか いしよう 「ウナギのなぞを追って」 ◎事実と考察の関係を押さえて読み、自分が興味をもったところ、感心したところを中心に、文章を要約したり引用したりして紹介する。	C(1)イ・エ・オ B(1)カ 伝国(1)イ(ア)	10 (+1)		文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。	○引用したことについて自分の考えをもつようにさせる。	文章の構成や展開、表の特徴について、自分の考えをもつ。	
2	大事なことを落とさずに聞こう 聞き取りメモの工夫 ◎自分の目的と照らして、自分にとって大切な情報は何かを考えながら聞く。	A(1)ア・エ 伝国(1)イ(イ)	6		身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出す。	○関心のあることから話題を決め、得た情報を整理し相互関係を付けることをおさえる。	考えた事や伝えたい事などから話題を決め、収集した知識や情報を関係付ける。	

	漢字の広場⑤ ◎3年生までに配当されている漢字を書き、文の中で使う。	伝国(1)ウ(イ) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	聞いて楽しもう 額に柿の木 ◎読み聞かせを聞き、登場人物の行動を中心に、場面の様子に想像を広げる。	C(1)ウ 伝国(1)イ(オ)	1		場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	
	5. 調べて、まとめて、読み合おう 『ことわざブック』を作ろう ◎ことわざや故事成語の意味を知り、使ったり、書くことを決めて必要な事柄を調べ、必要に応じて要約や引用をしながら文章を書いたりする。	B(1)ア・イ・オ・カ C(1)エ・カ 伝国(1)ア(イ)・イ(ア) (オ)(カ)	15 (+1)	辞書を活用して語の意味を理解し、表現するための語を増やすことが重要である。	経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集める。書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。	○ことわざや慣用句、故事に含まれる言葉の意味を知り、実際の言語生活に用いることをおさえる。読むこと(2)のイ、伝説的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)のオと関連させて、言語に関する児童書を活用させる。 ○興味や関心を自分から深めていくように進める。 ○考えの明確さや書き方の巧みさなどを述べ合うようにさせる。	古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。	
3	漢字の広場⑥ ◎3年生までに配当されている漢字を書き、文の中で使う。	伝国(1)イ(ク)・ウ(イ) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、書いたりする。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりすることを扱う。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	6. 作品のひみつをさぐる 「初雪のふる日」 ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化や情景を読み取ることができる。	C(1)ウ・オ B(1)ウ・オ 伝国(1)イ(オ)	10 (+1)	表記の誤りを見直したり、よりよい表現になるよう考えたりする力をつける必要がある。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	
	合計		245					